



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

創立40周年記念「婦人の国際会議」開催



記念式典でお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成29年8月29日、ホテルニューオータニ東京において公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会創立40周年記念「婦人の国際会議」が開催されました。

記念式典では、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、参加者一同思いを新たにしました。(お言葉は本誌3ページに記載)

「婦人の国際会議」は、オープニング、記念式典、特別講演、国際シンポジウムの4部構成で進められました。(本誌4～7ページに記載)

第68回結核予防全国大会開催

平成29年5月19日、北海道札幌パークホテルにおいて、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第68回結核予防全国大会が開催されました。

秋篠宮妃殿下は大会式典でお言葉を述べられました(お言葉は本誌3ページに記載)。

また、同大会で、第20回秩父宮妃記念結核予防功労表彰式が行われ、本協議会から事業功労賞(団体)に北海道健康をまもる地域団体連合会が受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。



大会式典にて表彰状を授与される秋篠宮妃殿下

結核研究所国際研修生との懇談会

平成29年6月27日、秋篠宮邸にて、平成29年度「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）時代における結核制圧コース」の14カ国18名の研修生と御懇談が開かれ、研修生一人一人とお言葉を交わされました。



資金寄附者感謝状贈呈式並びにお茶会

平成29年6月28日、リーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区）において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた個人や団体の方々に、秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。

また、記念写真とお茶会が行われ、資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。



公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会創立四十周年記念「婦人の国際会議」おこぼ

平成二十九年八月二十九日

本日、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会創立四十周年記念「婦人の国際会議」が開催され、皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

全国結核予防婦人団体連絡協議会の創立に先立ち、まず長野県で、小学校での結核集団感染をきっかけとして結核予防婦人会が作られました。その後、活動は各地に広がって全国組織が結成されました。

当時の日本は結核罹患率が高く、婦人会は、結核予防会と協力し、「結核予防は主婦の手で」をスローガンに掲げ、家庭婦人を対象にした結核の教育や広報活動に努め、健康診断の手伝いなどをおこないました。結核予防会の総裁をお務めいただいた秩父宮妃殿下も、各地の婦人会活動を励まされました。

そして、日本の結核罹患率は、大幅に低下していききました。これは、国や関係団体による結核対策の成果に加えて、家庭を結核から守り、地域から結核をなくすために努力してこられた、婦人会の皆さまの熱意によるものと思います。心から感謝いたします。

しかし、二〇一五年の統計によると、日本は未だに結核の中蔓延国に位置しており、世界では、千四十万人が新たに結核を発症し、四十八万人が新たに多剤耐性結核を発症したと、推定されています。こうした中で、婦人会の活動は、その分野を広げました。毎年八月から十二月までおこなわれる複十字シル運動で集められた募金は、普及啓発のほか、国際協力にも使われています。中央講習会・地区別講習会では、国内の結核予防の知識に加え、海外の状況や、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などについても学んでいます。

今年の三月には、結核関連の国際学会「第六回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会」が、四十年ぶりに日本で開催されました。そこでは、「アジア太平洋地域における婦人会活動」というテーマのシンポジウムで、世界の結核対策として近年重視されている、市民団体の活動の観点から、日本の婦人会の活動が紹介されました。専門家も地域のボランティアも含めた多くの人が、力を合わせて取り組んできた日本の結核対策が、海外でも貢献していることを、心強く感じました。

本日は、結核予防会の黎明期についての特別講演、そして、日本とカンボジアの婦人会を含む、結核対策における婦人団体の役割についての国際シンポジウムがございました。結核が蔓延していた時代から結核対策に尽力されてきた人々やその活動について学び、これからの婦人会の活動について考える貴重な機会になることと思います。

婦人会の皆さまには、結核をはじめとする健康の課題について理解を深め、それぞれの地域で普及啓発に取り組んでおられます。熱心な活動を続けてこられたことに、深く敬意を表します。

皆さまが、これからも人々の健康のために活躍されますことを希望いたしますとともに、皆さまとご家族の健康を願い、本国際会議に寄せる言葉といたします。

第六十八回結核予防全国大会 おこぼ

平成二十九年五月十九日（北海道）

本日、「第六十八回結核予防全国大会」が、ここ北海道において開催され、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

はじめに、本日、「第二十回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力に対し、深く敬意を表します。

日本では、結核罹患率は低下していますが、二〇一五年の統計では、十万人に対して十四・四人と、未だに結核の中まん延国であり、年間では約一万八千人が、新たに結核を発症しています。糖尿病や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの生活習慣病が、免疫の機能を弱めて結核を発病する危険性を高めていることや、外国生まれの結核患者が増加していることなどの、課題もあります。受診や診断の遅れによる集団感染も、発生しています。

昨日は、慢性閉塞性肺疾患についての基調講演に続き、北海道での結核医療、健診事業、保健所の対策、患者への支援、婦人会の活動などについて、貴重なお話を伺いました。北海道は、二〇一五年の結核罹患率が十万人に対して九・九人となり、低まん延とされる基準の十人をいち早く下回りました。こうした北海道での研鑽集会は、これから全国で、様々な領域の関係者が協力し、複合的な対策をおこなって、結核罹患率を更に低下させていくことについて考える、大切な機会になったのではないかと思います。

世界に目を向けますと、二〇一五年には、千四十万人が新たに結核を発症し、四十八万人が新たに多剤耐性結核を発症したと、推定されています。今年の三月には東京で、「第六回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会」が開催されました。その折には、世界の結核対策として近年重視されている、市民団体の活動という観点から、日本の結核予防婦人会の活動の紹介がありました。専門家も地域のボランティアも含めた多くの人が力を合わせ、取り組んできた日本の結核対策が、海外でも、結核で苦しむ患者と家族を助けるために貢献していることを、心強く感じました。

結核予防会は、国の内外で、重要な役割を果たしています。本大会に参加されている皆さまが、結核予防をはじめとする肺の健康のための活動に力を尽くされていることに、感謝いたします。これからも、皆さまが、ご自身の健康に留意されながら、人々の健康を支えるためにご活躍くださいますよう心から願い、式典に寄せる言葉といたします。

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 創立40周年記念「婦人の国際会議」主催者挨拶

本日、公益財団法人結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会創立40周年記念「婦人の国際会議」を催すに当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

秋篠宮妃殿下にはご公務で大変お忙しい中、創立40周年記念「婦人の国際会議」にご臨席賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

また、麻生太郎副総理、工藤翔二結核予防会理事長、カンボジアからロー・ケン国会議員のご列席をいただき厚くお礼申し上げます。

昭和50年4月、結核予防及び公衆衛生の向上を図り、健康で明るい社会の実現を目指すことを目的に、「全国結核予防婦人団体連絡協議会」が発足いたしました。そして昭和52年には正式に社団法人の認可を受け、平成24年に公益認定を受けて、組織の強化と事業の拡大を図ってまいりました。

このたび全国結核予防婦人団体連絡協議会は、創立40周年を迎え、全国の関係者、さらに海外の婦人会関係者が一堂につどい、「婦人の国際会議」を開催できますことは、誠に意義深いものと存じます。

これからも、私たちが結核対策で培った経験を生かし、国民の健康増進に貢献することはもちろん、近隣の結核の多い国々の婦人会活動への支援を強化し、国際協力を推進してまいりたいと考えております。

これまで結核予防婦人会に寄せられました関係各位のご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成29年8月29日

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 木下 幸子

来賓祝辞

麻生太郎副総理

麻生太郎です

今日は、皆様方のご努力で40周年を迎えられることになりました全国結核予防婦人団体連絡協議会の「婦人の国際会議」にお招きいただきまして誠に有難うございます。

長野市に結核予防婦人委員会が結成されたのが、昭和25年と伺っておりますが、その当時結核は日本人の死亡率の第1位でありました。それが皆様方のご尽力の結果、今日では結核で年間で亡くなる方々は約2,000人を切る数字になり、死亡率としては第29位に下がるところまで来ておりますが、これまで皆様方がご努力をされてこられた結果なのだ改めて敬意を表する次第です。

しかし米国をはじめといたします先進国の中において、結核罹患率が低まん延国の基準の10以下になっている中において、日本の結核罹患率は14.4になっており、これは間違いなく低まん延国ではないという数字になります。特に大阪、東京等々において結核罹患率というのは高い数字を示しております。そのような中、結核予防婦人会において結核予防全国大会、各種の講習会、また結核予防週間等々の取り組みを色々されており、結核の予防知識の普及に努めてられています。また、近隣諸国の高まん延国の結核対策に対する協力・支援というものの重要性を認識されて、カンボジアの結核対策プロジェクトの資金造成に協力されるなど、国際的な協力も進めてられています。

政府といたしましては、地域の医療機関や薬局等、また保健所が連絡し合って結核患者の治療が完了・完治するまで服薬確認をする体制、いわゆるDOTSの整備をし、結核治療とまん延防止に向けた政策対応を講じてきているところです。また、世界銀行やWHO、国際保健機構等々と連絡をして、途上国において結核の予防対策が進むように保健システムの強化に取り組んできたところです。

こうした取り組みは、国連の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）、SDGsプログラムに正式に盛り込まれて、世界的な流れにもなっておりますのが最近のことであります。

結核は決して遠い昔の話ではないのであって、今でもここ10年ほどの間、結核を発生したテレビのタレントの方もおられましたけれども、そういった例を見るまでもなく、学校においても集団感染等々が発生いたしております。

国内外において結核で苦しむことのない世界というものを実現するために今後も引き続き努力をしていかれることに結核予防婦人会の存在意義もあろうかと思っております。ご臨席の皆様方の益々のご努力と、ご活躍の結果が大きな成果を得られることを心から祈念申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきたいと存じます。

公益財団法人結核予防会 工藤翔二理事長

結核予防会を代表して、一言、ご挨拶申し上げます。

結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席の下で、全国結核予防婦人団体連絡協議会の創立40周年を記念する「婦人の国際会議」が開催されますこと、誠にありがとうございます。

また、麻生太郎副総理、カンボジアのロー・ケン議員並びに渡邊会長をはじめ御来賓の皆様方にご出席を賜り、誠に有難うございます。

ご案内のように、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会は、昭和50年に発足して、その後社団法人となり、平成24年に現在の公益社団法人となって、今日に至っておりますが、発足当時のわが国の結核罹患率は、人口10万対およそ100、正確には96.6、現在は10万対14.4にまで低下しております。

この間の結核罹患率の低下は、昭和14年の結核予防会設立をはじめ、戦前戦後を通じた官民上げての努力によってもたらされたものであることは言うまでもございません。中でも、結核予防婦人会の皆様方におかれましてはそのご努力が、日本の結核の歴史の中に刻まれる特筆すべきものであります。

全国結核予防婦人団体連絡協議会の誕生に至る歴史は、昭和25年、当時は、罹患率でいえば10万対700、年間60万人もの患者さんが発生していた時期でございますが、長野県のある小学校で結核の集団感染が発生したことが社会問題となって、子供を守るお母さん方が改めて結核のおそろしさを知り、家庭から、また地域から結核を追放しようと立ち上がったことに始まるといわれております。

今、私どもは、日本の結核を2020年、オリンピック・パラリンピック開催の年までに、欧米先進国並みの罹患率10万対10以下、低まん延国にすることを目標としております。そのためにも、現在でも1040万人が発病し、180万人が死亡している、アジア・アフリカを中心とした、世界の結核をなくさなくてはなりません。

木下会長は、婦人会のご挨拶の中で、「世界の結核を婦人の手でなくすという共通目標に向かって」、力を尽くしたいと述べておられます。

婦人会の40年間にわたるご努力に対しまして、心から敬意を表しますとともに、これからも日本と世界の結核をなくし、国民の健康を守るために力を注いでいただきたいとお願いを申し上げます。

カンボジア王国 ロー・ケン国会議員

Speech by Lok Chumteav Lork Kheng
Member of the Parliament
Kingdom of Cambodia
29 August, 2017

Her Imperial Highness Princess Akishino, Mr. Taro Aso, Deputy Prime Minister, Ms. Sachiko Kinoshita, President of JATA Women's Society, Distinguished guest, ladies and gentlemen

After emerging from the Chronic Civil War, Cambodia had one of the highest burden of tuberculosis in the world. Thanks to the assistance from the international communities, in particular from Japan, Cambodia has introduced program to combat against tuberculosis.

Improved access to TB treatment, better living standard, and better public healthcare are major factors for this success.

Along with the success of the program, new problems have arrived such as Multi drug resistance tuberculosis (MDR) and XDR.

We learned from the past that fighting tuberculosis requires persistence, hope, and coordinated approaches.

This is the reason why we meet today.

Last, but not least, I would like to offer my sincere congratulation to JATA Women's Society on the 40-year anniversary and express most profound respect for its long-term contribution to health promotion in Japan.

Thank You so Much for Your Attention

秋篠宮妃殿下、麻生太郎副総理、木下幸子全国結核予防婦人団体連絡協議会会長、ご来賓、ご列席の皆様

長く続いた内戦から抜け出した後、カンボジアは世界で結核が最も蔓延している国の一つとなりました。しかしながら、国際社会、とりわけ日本の支援を頂くことによって、結核と戦う対策を導入してまいりました。

結核治療が受けやすくなったこと、生活水準の向上、公的な健康管理の向上がこの成功の主な要因であると思います。

対策は成功しましたが、それとともに多剤耐性結核、超多剤耐性結核のような新たな問題も現れております。

私たちは過去の経験から、結核と戦うには粘り強さ、希望、協調した取り組みが必要であることを学びました。だからこそ私たちは今日ここに集っているのです。

最後に、カンボジアの国民を代表しまして全国結核予防婦人団体連絡協議会創立40周年記念を心よりお祝い申し上げますとともに、全国結核予防婦人団体連絡協議会が日本の皆様の健康増進に長期に渡って貢献されてきたことに対し深い敬意を表したいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 創立40周年記念「婦人の国際会議」 —女性は家族と地域の健康の担い手—

平成29年8月29日（火）、ホテルニューオータニ（東京都千代田区）鳳凰の間において、300名の参加を得て開催されました。

「婦人の国際会議」を写真で振り返ってみましょう。

式典

全国結核予防婦人団体連絡協議会の齋藤芳子副会長（北海道）による開会のことばに続き、木下会長より主催者挨拶がありました。

結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のお言葉を賜り、麻生太郎副総理、結核予防会工藤翔二理事長、カンボジア王国のLORK Kheng国会議員より祝辞をいただきました。御来賓の厚生労働省、第一生命保険株式会社、健康・体力づくり事業財団、全国地域婦人団体連絡協議会の皆様が紹介されました。



木下幸子会長 齋藤芳子副会長 向井麗子副会長



麻生太郎副総理 工藤翔二理事長 LORK Kheng国会議員



主催役員一同



御来賓の皆様

特別講演

「結核予防会の黎明と創業者・矢野恒太の想い」と題して、第一生命保険株式会社渡邊光一郎代表取締役会長より講演をいただきました。企業は最大になることよりも最良になることが重要であるという矢野恒太氏の理念が、結核予防会創立に結びついたことを学びました。結核予防婦人会の第69回保健文化賞受賞が決まった発表とお祝いの言葉をいただき、会場内は喜びに包まれました。



渡邊光一郎会長

国際シンポジウム

座長に、世界保健機関グローバル結核プログラム医官錦織信幸氏をお迎えし、国際シンポジウムが行われました。

錦織信幸座長から「結核対策における婦人団体（NGO）の役割について」、東京家政学院大学現代生活学



国際シンポジウムの様子



錦織信幸医官



松田正己教授



Koeut Pichenda先生



シンポジウム発表者のみなさん



藤田育美会長



岡田耕輔国際部長

部健康栄養学科松田正己教授（本誌「健康の輪」の編集委員）から「結核予防婦人会の現状調査分析」、カンボジア婦人会・カンボジア結核予防会Dr. Koeut Pichendaから「カンボジアにおける婦人会活動の現状」、徳島県結核予防婦人団体連合会藤田育美会長から「カンボジアの結核対策スタディツアー報告」、の4演題について発表がありました。また、フロアから結核予防会岡田耕輔国際部長に結核予防会の国際協力活動とカンボジアとの関係の経緯について発言をいただきました。

閉会のことば

全国結核予防婦人団体連絡協議会向井麗子副会長（青森県）より閉会のことばが述べられ、「婦人の国際会議」は、盛会裏に終了しました。

シールぼうや、オープニング、展示等

会場入口で、シールぼうやが参加者のみなさんを歓迎しました。12人のヴァイオリニストの皆様により、ジュピター（ホルスト）、愛の夢（リスト）、ラ・カンパネラ（リスト）、ツイゴイネルワイゼン（サラサーテ）の4曲が情熱的に演奏され、「婦人の国際会議」は華々しくスタートしました。



シールぼうや



12人のヴァイオリニスト

会場前では、記念展示「一女性は家族と健康の担い手—日本から世界へ」が開かれ、募金コーナーも設けられました。

当日、公益財団法人結核予防会様、第一生命保険株式会社様、日本ビーシージー製造株式会社様、全国地域婦人団体連絡協議会様、株式会社ニュー・オータニ様からお祝いのお花が贈られ、会場内に飾られました。ありがとうございました。



記念展示



募金コーナー



お祝いのお花

第68回結核予防全国大会決議

昨年11月に改正された「結核に関する特定感染症予防指針」において、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに日本を低まん延状態、すなわち、結核罹患率を人口10万対10以下にする目標が設定されました。2000年以降の罹患率減少速度と2015年の罹患率が1.4であったことを考え合わせると、決して容易な目標ではありません。その達成のためには、ハイリスクグループに対する早期発見や潜在性結核感染症治療の徹底、日本版DOTSに基づく患者中心の服薬支援や医療提供体制の整備が必要です。特に、患者が減少する中で、結核に関する関心の低下に起因する受診・診断の遅れが集団感染の背景となっていることから、結核対策の人材育成と技術支援の強化、また、住民の方々への継続的な普及・啓発活動が重要です。

一方、北海道及び8つの県では罹患率10以下の低まん延状態になりました。これらの地域では、低まん延のもとでのより効果的な結核対策の実施とともに、結核対策で培ったスクリーニングや普及・啓発の経験を活かして、肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喫煙対策等の「肺の健康」の推進にこれまで以上に取り組むことが望まれます。これは、結核予防会の基本方針で

ある、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策に合致するものです。

世界に目を向けると、年間1000万人以上の人々が結核に罹患しており、その中の48万人が治療に難渋する多剤耐性結核です。推定140万人の死亡者の中で14万人は小児とされています。我が国の20歳代の患者の中で半数以上が外国出生者であり、多剤耐性結核の割合が高いことから、日本の結核制圧のためには高まん延国の結核対策に対する支援を一層進める必要があります。

世界保健機関（WHO）は、結核終息戦略において、2035年に世界の結核罹患率を人口10万対10以下にして、結核によって破滅的な経済的負担を強いられる世帯を皆無にするという目標を設定しました。この達成のために、患者中心の予防と医療、骨太の政策と支援システム、研究と技術革新の強化を柱とした対策やユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、すなわち、すべての人々が必要な医療を受けられるようにすることを求めています。このために、日本が高まん延期を克服してきた経験、特に、官民一体で推進した早期発見・早期治療の実現や関係する組織の連携による患者中心の服薬支援、医療の提供方法の普及、さらに日本が開発した新技術の活用が期待さ

れています。

以上のことから、本大会は国及び地方公共団体との協力のもとに、次の6項目の実現に向けて一層の努力をすることを決議します。

- 一、結核に関する正しい知識の普及・啓発を行うとともに、効率的かつ効果的な結核対策を進め、予防指針に掲げられた目標を達成すること。
- 一、地域の実情に合わせた患者中心の結核医療体制を整備すること。
- 一、世界の結核対策に貢献するため、日本の経験や新しい技術を活かすこと。
- 一、肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喫煙対策等の「肺の健康」のための普及・啓発を推進すること。
- 一、特定健診・特定保健指導について生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施の支援を行うこと。
- 一、全国結核予防婦人団体連絡協議会等、関係団体とともに、結核予防の普及・啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げること。

平成29年5月19日
第68回結核予防全国大会

第68回結核予防全国大会宣言

我が国の結核罹患率は人口10万対15を切りましたが、さらに2020年までに低まん延化の実現を目標に、ハイリスクグループへの対策を強化し、患者中心の服薬支援や治療を推進し、地域の実情に合った結核医療体制の整備をさらに進め、正しい知識の一層の普及・啓発に努めます。また、各地域では

より効果的な結核対策の実施とともに、肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喫煙対策等の「肺の健康」の推進に取り組めます。

一方、我が国の20歳代新規患者の半数が外国出生者であることから、世界保健機関が進める結核終息戦略に協力し、日本が高まん延期を克服した経験と日本で開発さ

れた新技術を活かしながら、世界の低まん延化に向けて一層の支援に取り組めます。

以上、宣言します。

平成29年5月19日
第68回結核予防全国大会

第20回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞（団体部門）受賞に寄せて

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



ライラックの花
香る五月晴れの平
成29年5月18日、
19日、札幌パーク
ホテルに於いて、
総裁秋篠宮妃殿下
のご臨席を賜り「第68回結核予防
全国大会」が全国から約1,300名
のご参加を頂き開催されました。

本大会において私達、北海道健康をまもる地域団体連合会は第20回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞（団体）を受賞致しました。顧みますと昭和43年北海道結核予防

関係婦人団体幹部講習会が北海道と結核予防会北海道支部の主催で、結核予防会総裁秩父宮妃殿下ご臨席のもと、国立大雪青少年交流の家で開催されております。昭和52年に第10回、昭和57年に第15回、昭和62年に第20回と継続して開催し、いずれの記念式典にも総裁秩父宮妃殿下のご臨席を頂き開催されて来ました。平成9年に第30回北海道健康をまもる地域団体連合会の結成20周年記念式典を挙行し、総裁秋篠宮妃殿下のおことば拝読を結核予防会青木正和理事長より賜りました。このような活動の変遷を得て、平成20年に健康をまもる婦人団体連合会から健康をまもる地域団体連合会に名称を変更し活動しております。

北海道の結核罹患率は人口10万

人当たり10以下で低蔓延状態となりました。私達は結核対策として、私達のできる普及啓発活動や、肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、禁煙運動等を積極的に実施しております。

この度、このような努力と先人の輝かしい活動の足跡が評価され「第20回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞（団体部門）」受賞の栄を賜りました。大変光栄であり、本事業にたずさわられました多くの婦人団体、役員、会員の皆様の栄誉であり、地域住民の皆様のご協力の賜物であります。

この受賞を機にさらに「結核のない北海道」「北の大地から、なくそう結核」を目標により一層啓発活動に励んで参りたいと決意しております。🐱

厚生労働大臣表敬訪問

9月12日(火)、結核予防会と全国結核予防婦人団体連絡協議会は連携して厚生労働省へ大臣表敬訪問を行い、工藤理事長と木下婦人会長が福田健康局長に面談し、複十字シール運動への一層の理解と協力をお願いしました。厚生労働省から三宅結核感染症課長、高倉課長補佐、設楽係長、進藤氏、当会から前川事業部長、小林募金推進部長が出席しました。

初めに、工藤理事長より、国内の結核罹患率は人口10万対13.9で、前年より減少しているが、こ

のペースでは2020年までの低まん延国入りの目標達成は厳しい状況であると述べ、外国出生者の患者が増えており、日本の結核対策には、国内のみならず周辺国の対策の強化が重要であり、結核予防会はこの活動に取り組んでいきたいと話しました。

小林募金推進部長からは、複十字シール運動の歴史と活動を紹介し、運動をよりわかりやすいものにしていく取り組みについて話しました。

木下婦人会長からは、1人から

2人へ、2人から4人へと、草の根的に運動を広めていくことが大切であり、世界から結核をなくすことを目標に活動していると話されました。

福田健康局長からは、啓発活動は重要であり、引き続きがんばってほしいと運動への理解と激励を頂きました。

最後に5月に開催された第68回結核予防全国大会で採択された決議宣言文に要望書を添えて、前川部長より提出しました。🐱



知事表敬訪問

山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会
会長 五十嵐 雪子



8月1日から始まった複十字シール運動にあわせ、山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会、やまがた健康推進機構の10名で、8月2日に知事表敬訪問をおこないました。

当日は、知事の都合が合わなかったため、武田啓子健康福祉部長、阿彦忠之医療統括監が対応してくださいました。

私達は、日頃の啓発活動、シール運動の趣旨、募金活動、活用等

を説明。また、結核への理解、関心が低く、山形県の募金額が全国平均を大きく下回っているので県として結核予防に力を入れていただきたいことを申し上げ、募金箱、シール、ポスターを手渡し、協力をお願いしました。

県は、早速庁舎内に募金箱を設置して、活動の普及啓発に協力す



ることを約束してくださいました。次の日、地元新聞に表敬訪問の内容が掲載されました。多くの県民にシール運動が理解され、関心を持っていただけたと思っています。

今後も、結核や生活習慣病のない健康で明るい社会を目指してシール運動を進めて行きます。🐱



東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子



東京地婦連では8月8日、会長をはじめ、副会長を含めて4名が東京都結核予防会の石館敬三理事長とともに、東京都社会福祉保健局の笹井敬子技監を訪問しました。今年度のシール募金活動の趣旨を伝え、各自治体からも結核予防について広く一般都民に伝え、結核予防について一層の協力をお願いしました。

笹井敬子技監をはじめ都職員の

皆さまは、私たちが暖かくむかえて下さり、結核予防の趣旨をお話することができました。

結核予防の普及・啓発を図るため、公益財団法人結核予防会は、8月1日から12月31日まで「結核のない世界」をつくるために、全国一斉に複十字シール運動の募金



活動を実施いたします。

複十字シール運動は、募金額に応じてシールを贈り、封筒や手紙のメッセージにシールを添えて「みんなの力で結核や肺がんをなくすために」と周知していますことをお話することができました。🐱



石川県結核予防婦人会
会長 能木場 由紀子



結核予防を啓発する「全国一斉複十字シール運動 8/1～12/31」がスタートしました。戦前から戦後にか

けて「国民病」といわれ、とりわけ石川県は「結核王国」を呼ばれていました。そのような時代に生まれ育った世代が70才以上となり、かつて感染した菌が休眠状態となったものの、年齢を重ねにつれ、免疫力の低下に伴って症状が出てくるケースが少なくないといえます。

8月2日、石川県庁へ竹中博康副知事を表敬訪問し、活動への協力をお願いしました。9月の結核予防週間には、結核予防会石川県支部の方々と共に街頭啓発活動を行います。高齢社会の今日、早期発見に向けた健診を呼びかけ、さらにこの運動が開発途上国の結核対策にも募金が充てられるよう、

県内各市町の婦人会員の協力をお願いしているところです。

先日、全国結核予防婦人団体連絡協議会の創立40周年記念「婦人の国際会議」に参加しました。カンボジア結核対策スタディツアーの報告を聞き、シール募金が国際協力に役立っている現状を知り、益々運動を強化していきたいです。🐱



鳥根県連合婦人会
会長 田儀 セツ子



全国一斉複十字シール運動開始に伴い、公益財団法人鳥根県環境保健公社職員、鳥根県連合婦人会正副会長が揃って、平成29年8月24日鳥根県知事表敬訪問を致しました。

知事表敬訪問は、はじめに公社職員の方から県内の結核患者発生状況について具体的に説明がなされ、その後私達婦人会は複十字

シール運動の活動内容を知事にお伝えし、この活動の重要性・継続して進めていくことに深いご理解をお示し下さいました。

複十字シール1枚1枚のシール

の下の部分の文字をじっと見入っておってくださる県知事の思いが伝わり、胸が熱くなる思いで知事室を後にした表敬訪問でした。🐱



福岡県結核予防婦人会
会長 木下 幸子



このたび、平成29年度の複十字シール運動が始まる8月1日に、松田福岡県結核予防会理事長とともに福岡県に複十字シール運動への協力についてお願いにまいりました。

県庁では大曲昭恵副知事、議会事務局では守谷正人副議長にお会いして、お願いの文書と募金媒体を手渡して運動の趣旨を説明いたしました。

特に、私たちはカンボジアへの支援等日本国内だけでなく、世界に目を向けて活動していることを

強く申し上げ、今後とも県の協力をお願いしました。

折からの猛暑で、同行したシールぼうやも大変な苦行を強いられていましたが意外と涼しい顔をしていました。訳を聞くと予防会職員の工夫による暑さ対策が施されたようです。

詳しくは教えていただけませんが、昨年度は聞こえなかった「キュルキュルキュル」と着ぐるみの中から電動送風機らしき機械音が聞こえていました。🐱



県庁



議会事務局

会長就任ご挨拶

鹿児島県結核予防婦人会
会長 伊佐 幸子



日本は結核の「中まん延国」と言われて久しくなりましたが、結核は既に日本にはない「過去の病」と思われていた方も多かったのではないのでしょうか。

超高齢社会を迎えて、地域で結核を発病する高齢者のことを聞くようになりました。また、結核は、外国人が多く集まる都市部に集中する傾向があり、働き盛りの方への感染の発見が遅れることで更に周囲に感染を広めたり、HIV感染者やAIDS発症者に結核菌が感染すると命取りになること等、大変恐ろしい病です。

発展途上の国々にも、あらゆる角度からの支援を惜まず、また、2020年の東京オリンピックまでに日本が結核低まん延国になるよう、最後のアンカーとしてがんばります。

岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会
会長 岡崎 文代



平成29年度より岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会の会長を引き継がせていただきました。

16年間も会長として、前会長の藤本名誉会長は愛育委員のリーダーとして活動されてきました。7月29日、岡山プラザホテルで「藤本名誉会長を囲む会」を開催し、全国結核予防婦人団体連絡協議会山下武子理事をはじめ県下たくさんの方々が出席してくださり、名

誉会長の功績をたたえ、本当に長い間ごろうさまでしたと、楽しい会で終わりました。

これから会長としての私は気負うことなく、皆さまのご協力をいただきながら、できる力でできることを楽しみながら結核予防活動、禁煙啓発活動、がん予防啓発活動、乳幼児の虫歯予防、認知症予防対策、子どもの貧困対策等の愛育活動を続けていきたいと思えます。

一般社団法人
大阪エイフボランティアネットワーク
会長 金谷 美津子



このたび会長に就任いたしました金谷でございます。

今年も8月1日の全国一斉複十字シール運動の開始に伴い、7月28日大阪エイフ会長・副会長と大阪府結核予防会増田理事長ほか役員の方々と、濱田省司大阪府副知事を表敬訪問し、複十字シール運動への理解と協力をお願いして参りました。また、9月25日池田市民文化会館において大阪府結核予防会と共催で開催した「結核予防推進大会」は、出席者が240名余と、超満員でした。この会場ではCOPDの予防と認知度の向上等を目的に、結核予防会が「肺年齢測定体験会」を同時開催しました。私は、このように参加者が体験できる「見える化」のある健康イベントが、予防活動の第一歩だと思います。

国では2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催年までには、低まん延国を目標としておりますので、私たち大阪では極めて厳しい目標ですが、関係団体の協力を得ながら会員と共に結核予防

運動を推進して参ります。また、複十字シール運動につきましては、近年会員の高齢化に伴い組織率が低下し、シール運動の実績が年々減少しておりますが、府下市町で実施されている「健康まつり」等、あらゆる機会を活用して普及啓発に努めて参ります。

山口県結核予防婦人会
会長 藤家 幸子



平成29年度より山口県のまとめ役を仰せつかりました。今年は、全国結核予防婦人会創立40周年という大きな節目の年でもあり、身の引き締まる思いでございます。

結核については、これまでに中央講習会や全国大会そしてアジア太平洋地域国際会議など研鑽の機会をいただき、日本の主要な感染症だと再確認しました。

今後、海外から外国人の来日も多く予想されることから、結核根絶への取り組みを更に継続的に強化していく必要があります。

薬をきちんと飲み続ければ、必ず治癒できる病気でもあります。

「結核はみんな知ってる、忘れてる！結核は忘れた頃にやってくる！」

を合言葉に、県知事訪問をスタートしました。

全会員による「複十字シール募金活動」やケーブルTV「まちかどPR」で視聴者にもしっかり呼びかけました。

更に、多くの人が集まる地域での祭りなどに出かけ、子どもから高齢者の方々へ幅広く理解をしていただき、募金活動への協力をお願いした啓発活動の推進を展開して参ります。

高知県健康づくり婦人会連合会
会長 佐々木 香代子



この度、高知県健康づくり婦人会連合会の会長に就任いたしました。私たちの団体は昭和43年に発足し、今年度で50周年を迎え、記念大会を開催する予定です。こ

の節目の年に会長の重責を担い、身の引き締まる思いです。

私たち健康づくり婦人は「健康づくりは幸せづくり」を合言葉にして健康づくりにおける正しい知識の普及啓発、健診の受診率向上、複十字シール募金運動等の活動に日々努めております。「結核は不治の病」と呼ばれたのは昔の話で、医学の進歩により現在では早期発見することで完治するよう

になりました。しかし、全国的にも高齢化が先行している高知県において結核及び呼吸器疾患が生命に関わる大きな脅威であることに変わりはありません。その現状を念頭に、私たちは地域のニーズに答え、住み慣れたふるさとで元気に長生きができる健康づくり婦人会活動に力を注いでまいります。🐱

平成28年度複十字シール募金結果報告 ご支援ありがとうございました

平成28年度の複十字シール運動は、厚生労働省、文部科学省、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会の後援を得て、全国規模での募金活動、併せて結核の普及啓発活動を実施しました。

平成28年度の募金総額は約2億1,150万円となりました。募金方法別の内訳は、「郵送募金」が約6,822万円（32.3%）で最も多く、次いで「婦人会関係」約5,525万

円（26.1%）、「市町村関係」約5,014万円（23.7%）でした。都道府県別では、「婦人会関係」が首位を占める自治体が25と最も多く、特に北海道・東北地区は7県中6県、九州・沖縄地区では8県中7県が1位でした。

婦人会の皆さまには、募金の呼びかけ、キャンペーンでの街頭募金活動、知事表敬による運動への協力依頼等、多大なご協力をいた

だき心より感謝申し上げます。

益金は、結核予防の広報や教育資料の作成、研修会や結核予防全国大会の開催等の普及啓発、開発途上国の結核対策支援、全国の結核予防団体の活動支援、結核の調査研究等にに使わせていただきました。

引き続き、複十字シール運動へのご支援をよろしくお願いいたします。🐱



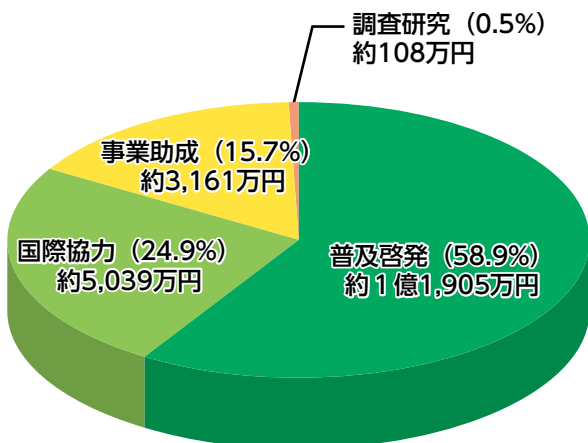
シールちゃん



ツベリーナ

平成28年度複十字シール募金 使途内訳

募金総額 211,503,303円
益金（諸経費除く） 202,126,624円



シールぼうや



シールハイハイ



たすけあインコ

びわ湖石けんエコクリーンについて

滋賀県地域女性団体連合会
会長 鶴飼 淳子



始まりは、赤ちゃんのおむつかぶれと主婦湿疹が合成洗剤のせいではないかと気づいた主婦の言葉でした。

40年前、琵琶湖に赤潮が発生し、石けん運動も40周年を迎えます。その当時、洗濯機を車に乗せて使いづらい石けんの使い方の普及啓発活動が行われました。女性の力が行政を動かし、琵琶湖富栄養化防止条例が「びわ湖の日」となった7月1日に制定されました。条例の制定のためには県民の50%が粉石鹸を使うという条件でしたが、実に70%を超える使用率となり、女性の力が行政を動かしました。

しかし、粉石鹸は使いづらく、平成4年稲葉知事が石鹸会社に

「滋賀県の粉石けんを作ってほしい」と直接お電話をされ、石けん技術開発協会が設立され、滋賀県と協会との共同で生まれたのが粉石けんエコクリーンです。平成20年、ドラム式洗濯機に合わせて液体石けんエコクリーンが新たに生まれました。さらに昨年、協会のご協力を得て、合成界面活性剤と化学香料を排除し、環境にも身体にもさらに優しい液体石けんができました。

石鹸には5000年の歴史があり、海や湖はきれいなまま保たれていました。100年にもならない合成洗剤で琵琶湖は汚れてしまいました。私達はもう一度石けんを見直し、100年先の琵琶湖を見据えて活動して行きたいと思っています。環境のためにも体のためにも日本中の皆様にも石けんを使っただきたいと願ってやみません。🍅



愛していますこの湖都を



エコクリーン



粉石けん

イラスト・カット募集

平成30年3月号（健康の輪No.122）に掲載するイラスト・カットを募集いたします。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成30年1月22日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL：03-3292-9288



シールぼうや

編集後記

今お読みになられているこの「健康の輪121号」の表紙の右上に複十字シール図案が載っています。実は、この図案は大型シールの24面と、小型シールの6面、両方で計30面の中でただ1枚だけのものです。

30分の1という希少な図案であることから、一部の関係者の間では「幸運の赤いブタ」と呼ばれて親しまれ、根強いファンがいらっしゃいます。そして、他にも30分の1の希少な図案があと2枚あります。ぜひ見つけて、ラッキーな気分になっていただきたいと思います。

一つだけヒントを差し上げます。「幸運の赤いブタ」と同様、小型シールの中にはなく、大型シールの中にあります。(三) 🐷

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。